

所 報

◆調査協議会の開催

日時・場所 3月25日(月) 当研究所役員会議室

出席者 調査協議会委員 慶応大学教授山本登ほか13名
当研究所 所長ほか5名

議事概要 1. 調査協議会の運営について, 2. 研究課題の位置づけについて, 3. 個々の研究課題について, 4. 研究者の主体性について, 5. その他

◆開発途上諸国の経済発展に関する諸問題についての優秀論文の審査について

各方面から推せんをうけた諸論文を, 審査委員会(委

員長東畑精一)において審査した結果, 下記2点を優秀論文として選定した。

なお表彰式は3月28日に名誉所長, 所長の出席のもとに行なわれ, 入選者には賞状および賞金が授与された。

執筆者氏名	論 文 名	賞金額
村 上 敦	後進国における工業製品の輸出パターンについて	50,000円
矢 野 暢	タイ国現代政治の分析	50,000円

◆ゼミナールの開催

世界経済交流協会との共催で下記のとおり国別ゼミナール(有料)「発展途上国の現況」を行なった。

場所 日本貿易振興会 9階会議室

月 日	国 名	テ ー マ	講 師
3月12日	韓 国 台 湾	韓国経済の現状 台湾の経済発展とその課題	動向分析部 小 牧 輝 夫 調査研究部 笹 本 武 治
3月13日	パキスタン フィリピン	パキスタンの工業化政策 フィリピン農業の現状と問題点	調査研究部 山 中 一 郎 調査研究部 梅 原 弘 光
3月14日	ベトナム カンボジア	ベトナム情勢の現状 カンボジアの中立外交と経済開発	動向分析部 今 川 瑛 一 調査研究部 高 橋 保
3月15日	東 欧 マレーシア	東欧貿易の現状 ——ユーゴスラヴィアを中心として—— マレーシアにおける貿易と華僑事情 ——サバ・サラワクを中心として——	日本貿易振興会 調査部主査 中 村 銈 司 日本貿易振興会 長崎貿易相談所 次 長 須 山 卓 次

◆現地調査の実施(3月出発)

調査国名	氏 名	現 職	調 査 課 題	期 間
台 湾	遠 藤 肇	農林大臣官房調査課課長補佐	台湾の農業開発	昭和43年3月11日 ~ 3月30日

◆在外職員の様子

(1) 出 発

氏 名	派 遣 地	課 題 名	出 発 月 日
宮 治 一 雄	アルジェ	アルジェリアの自主管理農場実態	3 月 6 日
岩 崎 輝 行	バークレー	経済計画の手法	3 月 11 日

中兼和津次	香 港	中国工業の研究——工業の所得分配率を中心として——	3 月 20 日
小牧輝夫	ソ ウ ル	韓国における社会経済構造の発展過程	3 月 30 日

(2) 帰 国

氏 名	派 遣 地	課 題 名	帰 国 月 日
栗屋 忠	ハ ン ブ ル グ	発展途上国に対する西ドイツの経済政策	3 月 6 日
深沢八郎	ニ ュ ー デ リ ー	1次商品貿易における流通(取引)組織	3 月 21 日

(3) 転 任

氏 名	派 遣 地	課 題 名	転 任 月 日
大岩川和正	ロ ン ド ン	イスラエル農村の社会経済構造	3 月 31 日

(4) 出 張

氏 名	出 張 目 的	出 張 地	期 間
大岩川和正	イスラエル農村の実態調査のため	デガニヤ村, テルアダー シーム村	2月22日～3月6日
吉岡雄一	チェンマイおよびタクー地域の 家内工業実態調査のため	チェンマイ, タクー	3月9日～3月18日
堀井健三	農業事情開発調査のため	ネグリセンプラン州, ジョ ホール州	3月20日～3月31日

◆海外からの来訪者

3月中の海外からの来訪者はつぎのとおりである。

(1) 3月4日, 金東熙(韓国農林部農林振興庁)が当研究所の研究活動状況ならびに資料, 活動状況についてのインフォメーション収集のため来所。笹本調査研究部長, 梶田図書資料部長ほか関係職員と懇談した。

(2) 3月6日, Mr. Joachim Krause (Friedrich-Ebert-Stiftung), Mr. Gebhard Hielscher (Director, Friedrich-Ebert-Stiftung e.V. Asian Labour Institute) が当研究所の研究, 出版状況視察のため来所。根岸調査業務部長ほか関係職員と懇談した。

(3) 3月16日, Mr. Ping-Kuen Yu 余秉権 (Prof. of History, Department of Chinese, University of Hong Kong) (Director, Center for Chinese Research Materials, Association of Libraries, U. S. A.) が, (1)当研究所の中国関係出版物について, (2)当研究所図書資料部所蔵の中国関係資料について, (3)当研究所における中国研究課題について, (4)当研究所と Center for Chinese Research Materials との連携について, 調査するため来所。梶田図書資料部長, 中村図書資料部次長, 高林図書資料部収集課長ほか調査研究部中国関係職員と懇談した。

(4) 3月21日, Mr. Belen B. Angeles (Librarian,

School of Economics, University of the Philippines) が当研究所図書資料部視察のため来所。滝川調査研究部次長, 高林図書資料部収集課長ほか関係職員と懇談した。

(5) 3月27日, Mr. Jose C. Gatchalian (Instructor, Asian Labor Education Center, University of the Philippines) が, (1)当研究所における労働関係資料所蔵状況について, (2)当研究所のアジア諸国労働事情研究状況について, 調査のため来所。梶田図書資料部長, 滝川調査研究部次長, 高林図書資料部収集課長と懇談した。

◆所内研究会

3月中に行なわれた所内研究会は, 次のとおりである。

梅原弘光 「ハシエンダ・パリオ——ヌエバ・エシハリトリアラ村の事例——」

高橋 彰 「地域研究, 農村調査, 地理学」

◆出版案内

1. アジア経済調査研究双書

第150集 『外国援助の経済効果』

第151集 『ラテン・アメリカ経済統合と経済開発』

第155集 『世界の商品Ⅱ——ココア』

2. 研究参考資料

第134集 『アジア諸国の経済成長と援助』

3. 『アジア経済資料月報』第10巻第2号

『アジア経済資料月報』1968年号外, 雑誌・新聞目録